



日本プライマリ・ケア連合学会 四国ブロック支部

Newsletter No.1 発行:四国支部 2013.2.20



## 1) 今年の支部大会は「高知で10月19～20日」

第13回四国ブロック支部大会長 阿波谷 敏英

四国ブロック副支部長・四国地域医学研究会 澤田 努

2013年の四国ブロック支部大会は、高知県が担当県となります。例年通り四国地域医学研究会と合同で開催します。以下のように予定しております。

第13回 日本プライマリ・ケア連合学会四国ブロック支部大会、第20回 四国地域医学研究会

開催日時： 2013年10月19日(土)13時～20日(日)12時

場所： 高知市総合あんしんセンター3F

<http://www.city.kochi.kochi.jp/soshiki/118/annsinnsisetusyokai.html>

大会長： 阿波谷敏英(高知大学医学部家庭医療学講座)

事務局： 澤田 努(高知医療センター地域医療科)

基調講演では、自治医科大学学長 永井 良三 先生(元 東京大学医学部附属病院病院長、元 東京大学大学院医学系研究科内科学専攻循環器内科教授)をお招きします。徳島県上勝町などを例に高齢者で仕事を持って活躍(葉っぱビジネス等)している地域の有病率を他の地域と比較検討したデータなどについて、ご講演いただく予定です。プライマリ・ケア医や医学生にとって有意義な内容になるものと思います。

6月頃には、会員の皆さま宛てに、一般演題募集や大会の内容についてのご案内をお届けする予定です。例年同様に、多数のご参加をお願いさせていただくと共に、多くの演題発表をお待ちしております。

現在、高知県では「リョーマの休日」(<http://www.attaka.or.jp/ryoma-holiday/>)という観光キャンペーンも行っており、カツオのたたきや新鮮なお刺身、日本酒、栗焼酎(ダバダ火振り)など美味しい土佐料理も併せてご堪能いただきたいと思います。青い空、青い海で有名な南国土佐の地で皆さまとお迎えできますことを関係者一同心より楽しみにしております。高知でお待ちしております!



## 2) 第12回新居浜大会を終えて

第12回四国支部大会長 かとうクリニック 加藤 正隆

四国4県の持ち回りで開催されている当会も3周目の最後、12回目を数え、愛媛県新居浜市で初めて開催させていただきました。

今回はテーマを「今、プライマリ・ケア医に必要な視点」と掲げさせていただきました。様々な視点が思い浮かべられると思いますが、私は「禁煙」がプライマリ・ケアにおける最も重要な視点の一つであると確信しています。新居浜市医師会は禁煙推進に早くから積極的に取り組み、2003年3月には郡市区医師会としては日本で初めて「医師会禁煙宣言」をした医師会です。この新居浜市医師会館を会場として開催させていただく大会にふさわしく、タバコ問題に関する話題がふんだんに盛り込



まれた大会になりました。

日本プライマリ・ケア連合学会丸山泉理事長には、大変なご多忙の中、理事長講演（座長：板東浩支部長）を快くお引き受けいただき、今後の学会の方向性についてご教示いただきました。

特別講演は、山形県からプライマリ・ケアがご専門でありながら精神科診療に積極的に取り組んでおられる川合厚子先生にプライマリ・ケアで出会う三大精神疾患「認知症・うつ病・ニコチン依存症」についてを、日本プライマリ・ケア連合学会国際疾病分類研究会委員をされている洲本の山岡雅頭先生には ICPC を用いた外来患者のデータのまとめかたをご講演いただきました。



教育講演は、外科専門医からプライマリ・ケア医に転身された元高松日赤病院副院長の森田純二先生が「プライマリ・ケア医に必要な COPD に関する視点」を先進の IT 技術をまじえてご教示くださいました。



また、日本プライマリ・ケア連合学会福岡大会で注目を集めたダブルバルーン大腸内視鏡について、創始者である自治医科大学消化器内科教授の山本博徳先生と、ダブルバルーン大腸内視鏡を最初にプ



ライマリ・ケアの場に導入された群馬県中山診療所の荻原裕之先生に「ダブルバルーン内視鏡のプライマリ・ケアの場における有用性」に関して、当会では初めてランチョンセミナーを富士フィルム様のご厚意で開催させていた



だきました。  
一般演題は、地元新居浜の十全総合病院古林太加志院長からの「総合医への期待」という我々へのエールで始まり、徳島大学学生の皆様の素晴らしいプレゼンテーショ



ンで盛り上がりました。  
経験豊富な先生方からコメディカル・介護スタッフの皆さんまで各県から史上最多 34 題の応募をいただきました。各県の世話人の先生方には多大なご尽力をいただき誠にありがとうございました。

懇親会では、新居浜協立病院のコンガ隊の皆様が楽しく盛り上げてくださり、楽しくにぎやかな交流の場になりました。

最後に、手前味噌になりますが、今大会の準備にあたり、当院とむらやま薬局のスタッフが多大な尽力をしてくれました。特に当院野村明美事務長は、メールでの膨大な情報交換や抄録づくりの大部分と事務的な準備の要所を本当に献身的に担当してくれました。また、村山勝志薬局長は様々な局面で細かい心配りをしてくれました。ふたりをはじめスタッフ皆の尽力



なしには今大会の成功はなかったと心より感謝し、今大会のご報告とさせていただきます。



### 3) 四国ブロック支部論文集を作成中

事務局長 大原 昌樹

学術大会での発表を論文化したものや会員からの投稿を元に論文集を毎年発行し、高い評価を得ています。平成 25 年度も論文集を発行します。ISDN コードも取得しています。是非、ご執筆をお願いいたします。

締切：2013 年 4 月 30 日必着（編集の関係上、締切延長は一切いたしません）

配布時期：高知での学術大会案内状と同時配布を予定

形式：専用フォームに文章、図表を貼り付けてメールで投稿してください。

問合せ先：大原昌樹 [oharamasaki@gmail.com](mailto:oharamasaki@gmail.com)

### 4) 四国ブロック支部の活動がスタート

四国ブロック支部長（学会理事） 板東 浩

2012 年 3 月 30 日、四国の中央に位置する四国中央市に、日本プライマリ・ケア連合学会・四国ブロック支部役員が参集し、今後の活動についての会議を行いました。

その後、2012 年 6 月には、日本プライマリ・ケア連合学会において新執行部が決定し、2012 年度からの活動が始まりました。そして、8 月 31 日～9 月 2 日には、第 3 回学術大会が福岡で開催されました。

以前と比較して、新執行部における学会運営の方向性の中で、丸山泉理事長が特に力を注いでいる領域の一つが、支部の活性化です。支部活性化・会員増強委員会が設立され、委員長にはさまざまなマネジメントが的確で迅速な外山 学先生が就任されました。早速、近畿支部のニューズレターが発刊され、全国の支部活動のモデルとなる活動が始まっています（なお、板東は副委員長を拝命しており、四国支部は迅速に対応したいです）。

2013 年 2 月には、支部活性化・会員増強委員会から全国の支部に連絡がありました。ブロック支部「ニューズレター／活動報告書」定期発行に関するもので、各支部においてニューズレターを発刊し、その情報はその地区だけではなく他の地区の会員にも推奨する内容です。四国支部としても、早速とりかかりたいと思っておりますので、四国ブロック支部役員の方や会員の方々のご理解・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

### 5) 四国ブロック支部についてご報告

四国ブロック副支部長・事務局長 大原 昌樹

A) 四国ブロック支部役員は、2012 年 1 月の総会で承認され、以下の体制で運営を行っています。

支部長：板東浩（徳島）、

副支部長：大原昌樹（香川）、川本龍一（愛媛）、澤田努（高知）、

事務局長：大原昌樹（陶病院事務担当者：事務長松原、事務長補佐山本）

幹事：高原完祐、村上晃司、杉山圭三、加藤正隆、千田彰一、木村年秀、山本洋、青木啓祐、武内世生

阿波谷敏英、夕部富三、瀬尾宏美、大中俊宏、白川光雄、鎌村好孝

監事：久保文芳、横井徹

B) 四国ブロック支部学術大会について

第 12 回大会は、2012 年 11 月 17～18 日、新居浜市で、加藤正隆先生が大会長で開催されました。

第 13 回大会は、2013 年 10 月 19～20 日、高知市で阿波谷敏英先生が大会長で開催予定です。

C) 役員会開催

年 2 回程度、役員会を開催しています。

2012 年 3 月 30 日 19:30～21:30 四国中央市

2012 年 11 月 18 日 8:30～9:00 新居浜市

2013 年 4 月 19:30～21:30 四国中央市（予定）

D) 論文集発行

現在までに 5 巻発行し、現在、第 6 巻を作成中です。4) をご参照ください。

## 6) 愛媛県の最近の話題

愛媛プライマリ・ケア研究会 川本 龍一

愛媛では、最近になって家庭医療ならびに総合診療に関する様々な勉強会や講演会が開催されています。家庭医療 in 愛媛 (2012年2月18日(土)) では、愛媛生協病院の先生方をお招きして「GPはここまで眼を診る事ができる」というテーマで、眼底鏡の正しい使い方に関するワークショップが行われました。愛媛プライマリ・ケア研究会 (2012年7月22日(土)) では、一般講演の後、特別講演として福井大学医学部の林 寛之先生をお招きし、救急を受診する患者を診療する際の心得を動画とともにわかりやすく説明いただきました。愛媛大学プライマリケア勉強会サークルによる「ジェネラルえひめ」11月24日(土) では、麻生飯塚病院の吉田 伸先生にお願いし「ガン検診」を題材にしたワークショップが行われました。闘魂祭「臨床推論」(2013年1月19日(土)では、筑波大学医学部の徳田安春先生にお願いし「発熱をきたした腹痛患者に関する臨床推論」のワークショップが行われました。愛媛ではプライマリ・ケアが学生の中でも盛り上がりつつあります。



闘魂祭

## 7) 見て！期待して！「徳島県地域医療支援センター (<http://www.t-cm.jp/>)」

徳島プライマリ・ケア研究会 鎌村 好孝

平成23年11月に徳島県の委託事業として、「徳島県地域医療支援センター」が、徳島大学病院に設置されました(全国の都道府県で設置が進められています)。センターで取り組む事業のうち、医師のキャリア形成支援があり、中でも、県内での総合診療医、ER医、外傷医の育成プログラムの創設により、これらの分野の医師を養成することが大きな目的の一つであります(現在、検討・準備中)。まさに、本学会における家庭医、病院総合医の後記研修プログラムにも通じる部分があると考えています。

平成24年2月にはキックオフシンポジウムとして、林寛之先生(福井大学教授)にご講演いただき、今年度の特別講演会は、平成25年2月8日に梶井英治先生(自治医科大学教授)に「地域医療支援センターに期待すること」をご講演いただきました。また、「総合診療の指導力育成事業(徳島GMラウンド)」等も、県外講師を招聘し、県内の病院で順次開催されているところです。学生、若手研修医向けに加え、指導医向けの研修にもなっており、今後の開催にさらに期待が高まります。大学や中核病院に加え、地域医療の現場の医師・多職種の方々とともに、取り組んでまいりたいと思っています。また、徳島大学の総合診療医学分野(谷憲治教授)においては、様々な取組をされており、たとえば、去る2月16日には「第11回徳島地域医療教育研究会」が開催され、医学生の発表や県外講師による講演がありました。発表内容としては、徳島での総合医を目指す人のための環境作りへの提案や、女性医師の復職や継続での課題、地域枠医学生の将来像についての意見・提案など、県・大学・地域の医療機関等みんなで考える貴重な機会となりました。今後も、将来を担う若い人たちと一緒に考え、そして一緒に取り組んでいきたいと考えています。皆様からのご助言等お待ちしております。どうぞ宜しくお願いいたします。

### 徳島県地域医療支援センター Tokushima Community Medical Support Center



## 8) 香川県の最近の話題

香川プライマリ・ケア研究会 大原 昌樹

香川県では、「香川プライマリ・ケア研究会」を1998年(平成10年)から香川県医師会が中心になり、医療、介護関係の12の職能団体(医師会、歯科医師会、薬剤師会、看護協会、理学療法士会、作業療法士会、言語聴覚士会、臨床検査技師会、栄養士会、介護支援専門員協議会、介護福祉士会、ホームヘルパー協議会)と県が参加して行っています。4年に1回、四国ブロック支部との合同集会を行います。その間にも研究会を開催しています。2013年2月25日に各団体の代表者が集まり、次回研究会の開催計画を検討することにしています。